

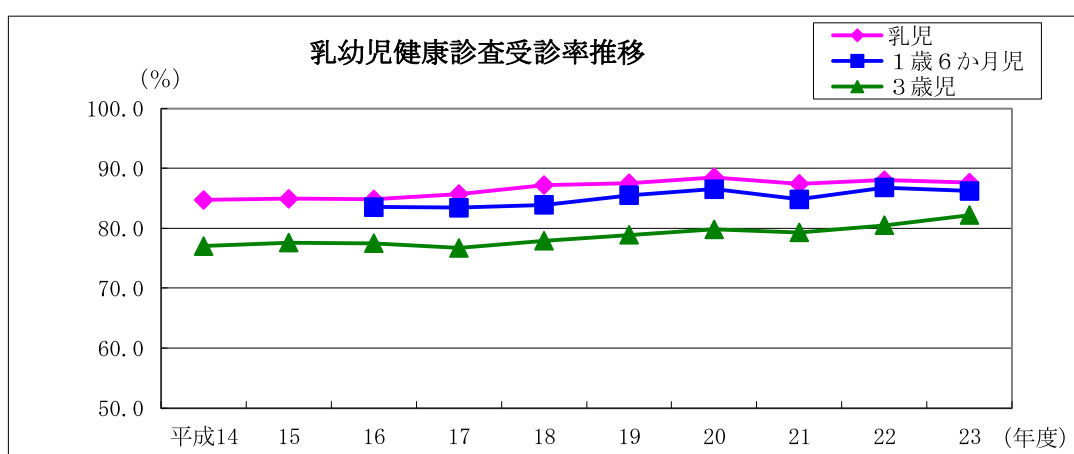
平成23年度乳幼児健康診査から

この報告書は、平成23年4月1日から平成24年3月31日までに実施された県内41市町村の乳児、1歳6か月児、3歳児の健康診査結果を乳幼児の健康と育児環境等について、市町村別に集計しまとめたものである。

平成23年度は健康診査からのフォローについて、より分かりやすくするために受診票を改訂した。保健師の保健指導等について新たな視点からも集計がなされている。

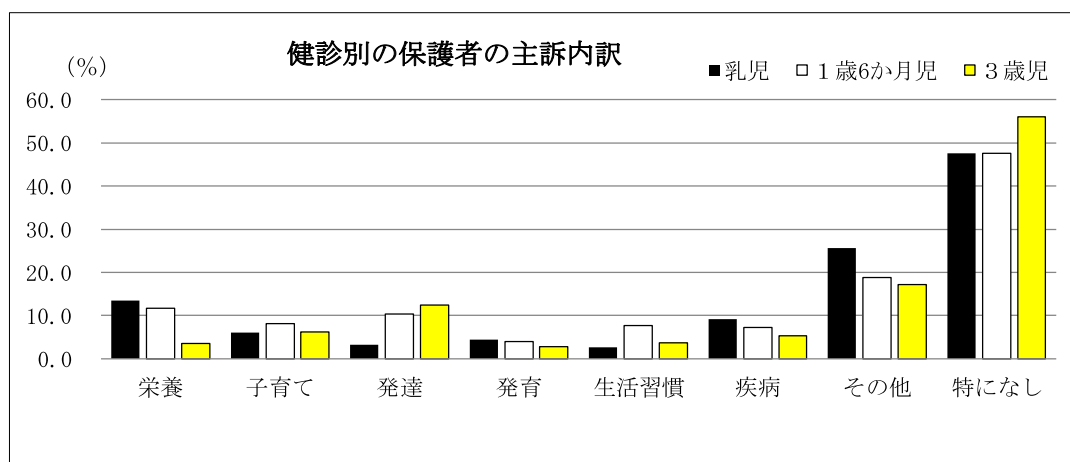
(1) 一般健康診査の受診状況について

全市町村とも健康診査の対象者数は、健診連絡者数としている。それを基に平成23年度の各々の受診率を算出すると、乳児は87.6%、1歳6か月児は86.2%、3歳児は82.2%となっている。乳児と1歳6か月児は受診率に減少がみられたが、3歳児は年々増加がみられる。



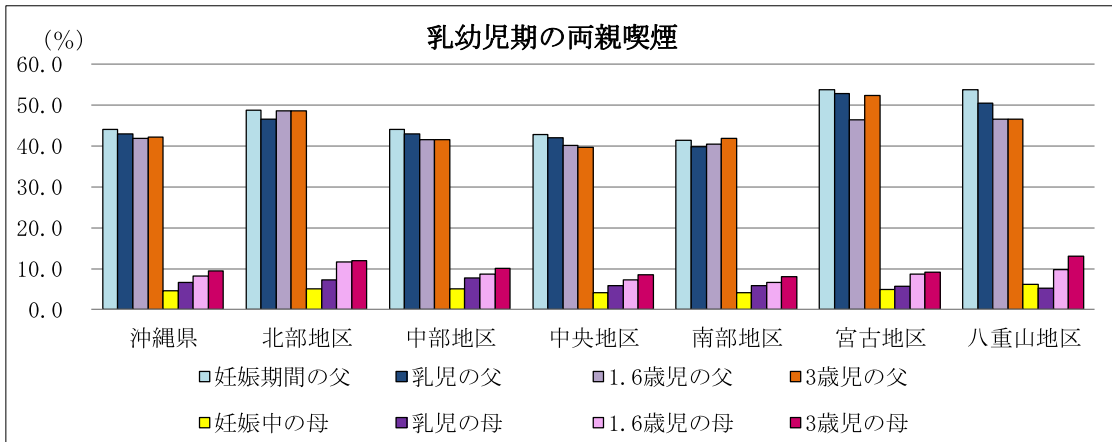
(2) 乳幼児健康診査時の保護者の主訴

乳幼児健康診査時の保護者の主訴について分類すると、乳児期と1歳6か月児については、栄養に関する主訴がみられ、1歳6か月や3歳に成長するにつれ発達に関する主訴が増えている。



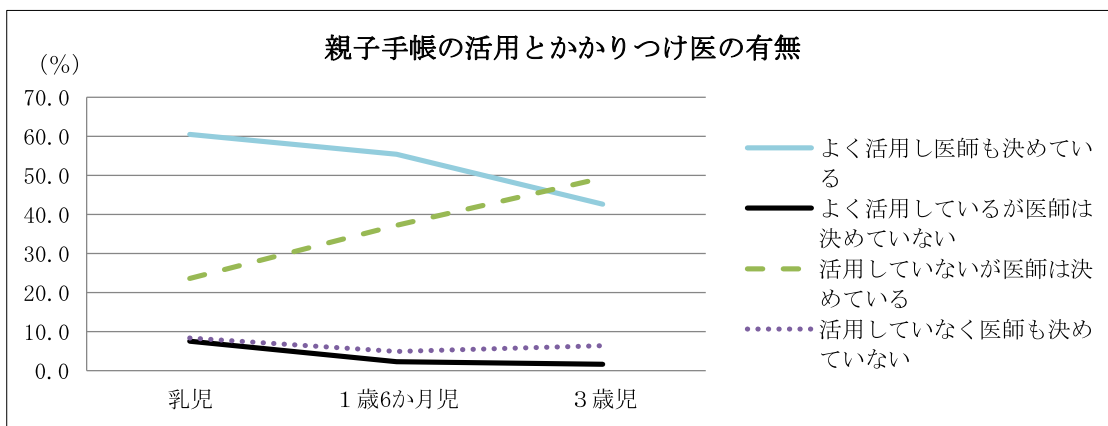
(3) 乳幼児健康診査時の両親の喫煙

乳幼児健康診査時の両親の喫煙率をみると、父親の喫煙は妊娠期間中から減少傾向にあるが、母親は増加がみられる。地区別にみると離島の方が喫煙率は高くなっている。



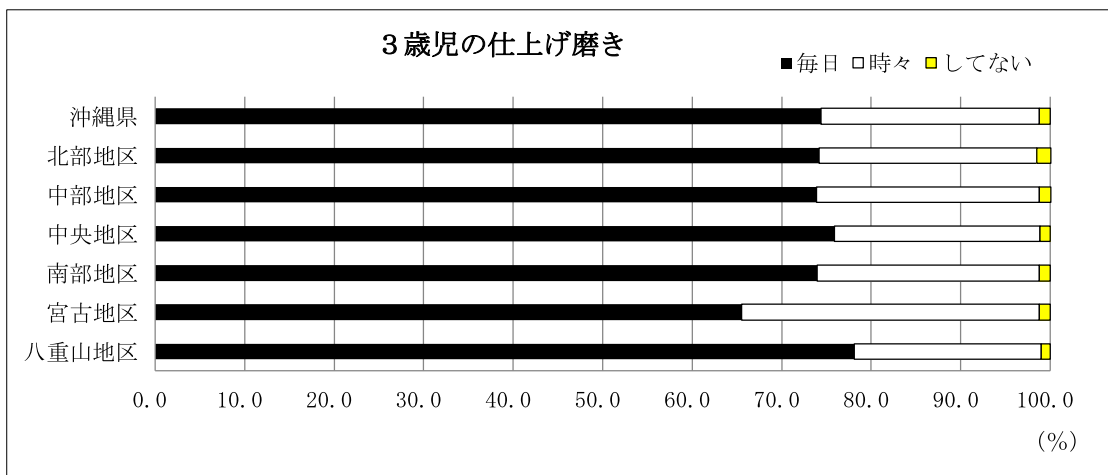
(4) 乳幼児期の親子健康手帳の活用とかかりつけ医について

乳幼児健診時の問診項目で親子健康手帳の活用とかかりつけ医の有無の関係をみると、乳児期は手帳をよく活用しかかりつけ医も決めている割合が高いが、3歳児頃になると手帳の活用が減少し、活用していないがかかりつけ医は決めていると逆転している。



(5) 3歳児の仕上げ磨きについて

3歳児の保護者による仕上げ磨きについて、地区別にみると離島でも違いがみられる。



おわり

平成23年度までの健康診査結果一部を紹介したが、詳細は各健診の項目を参照してください。